

2023.12.17.この世は悪魔の世界 Mac 牧師

皆さん、ご起立ください。一緒に祈りましょう。主よ、メッセージについて、ヨシャファテ王についてを考えます。(霊的)戦いを前にして、どのように礼拝を前進させたのかを。彼らがどのように賛美したのかを考えるのです。私が思うに、彼らは主への礼拝に受け身ではなかった。聖霊に満たされていたのです。それで彼らは、主への賛美に力を込めました。あなたを礼拝するとき、あなたが私たちに強さを教えてくださるよう祈ります。(会衆：はい！！) ”あなたを”賛美するように。主よ、捧げるのは歌でも、音楽でも、バンドでもなく、私たちが賛美するのは、”あなた”だからです。ですから、あなたが私たちに教えて下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン。主を褒めたたえます。ありがとうございます。ご着席ください。では、おはようございます。皆さん全員に祝福と、平安が増し加わりますように。皆さん来て下さり感謝します。J.D.牧師の代わりに、ここカルバリーチャペル・カネオへの日曜日の朝の礼拝・ライブ配信に来られたことを歓迎します。来訪者の方々、ようこそ。J.D.は不在ですが、私がいます。もちろんのことですけど、ここにいられることを感謝し、J.D.が必要な休暇を家族と過ごしているのを期待しています。私たちは、他に何が起こっているかもわかっていますからね。ですが、私たちはあなたを歓迎することに変わりはありません。皆さんとお会いし、フェローシップし、愛しあうことを楽しみにしています。念のためのお知らせです。次回の祈り会は、1月9日夜7時からこの礼拝堂で行います。念のためのお知らせです。次回の祈り会は、1月9日夜7時からこの礼拝堂で行います。念のためのお知らせです。次回の祈り会は、1月9日夜7時からこの礼拝堂で行います。また、このミニストリーの中で進行している様々なミッションのために祈って下さっていることにも感謝します。

また、ネパール宣教チームへのお祈りに感謝します。彼らは無事に帰国しました。主を褒めたたえます。一拍手ー 全員が五体満足無事に帰還したと聞いています。そのことに主を褒めたたえます。しかし、彼らの回復を祈り続けてください。長旅でしたから。彼らが主の御名によって行ったすべては、私たちがこの一部になる機会を得たことにとっても感謝しています。マウイへの祈りも続けて下さい。彼らが必要とするのは承知していますね。会衆の中での互いへの祈りもです。特に、J.D.牧師とケリーと家族のために。では、日曜日の朝は2つの礼拝があって、第一礼拝は、通常「聖書預言・アップデート」第二礼拝は、「説教」に専念します。しかし、今日は、2つの解説的な教えをします。で、第一礼拝は、皆さん「マタイの福音書4章」をご覧ください。8節から11節を読みます。今朝の聖句朗読のため、可能な方はご起立下さい。続いて祈りの言葉を捧げます。「マタイの福音書4章」8節から、有名な箇所です。神の御言葉が語られます。

ーマタイ 4:8ー

悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、

ーマタイ 4:9ー

こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」

ーマタイ 4:10ー

そこでイエスは言われた。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主のみ仕えなさい』と書いてある。」

ーマタイ 4:11ー

すると悪魔はイエスを離れた。そして、見よ、御使いたちが近づいて来てイエスに仕えた。

では、今朝のメッセージに主が祝福下さるよう一緒に祈りましょう。

天のお父様、主よ、どんなことでも、いつでもあなたの御座に来ることができる他にはない機会を下さり心から感謝します。この時間、あなたの御言葉が力強く、明瞭に、権威をもって、私たちの魂の奥底に触れてくださるようお願いいたします。あなたがあなたの教会で語られることから出るすべての豊かさを集め取り入れます。私たちは姿勢を正し、準備できています。ですから主よ、お語り下さい。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。そうなりますように。どうぞご着席ください。今朝の第一礼拝のタイトルは、「(この世は) 悪魔の世界」です。私がこの箇所を使うのは、これを指摘しただけではなく、私たちが、この世を、この世にあるあらゆるものを拒絶せねばならない事実の理由を指し示すためです。そして、その最も重要な事を前もって言うと、この世とこの世にあるあらゆるものを拒絶する方法は、イエス・キリストを受け入れ、主の道に従うことです。ええ、これは本当に、基本的なことのように聞こえますね？ でも何が悲しいかと言うと、私達は数多く何度も、この世に巻き込まれていること。私達は、この世が私たちに与えるものを探し求め、そのため神が私たちに与えて下さるものが見えなくなっています。で、何が起こるのか？ この物質世界が私たちの運命となる。しかし、これを知ってください。この物質世界そのものが、サタンに属しています。そっくりそのまま。それが(物質世界が)所属する者です。またサタンは、地球全体に霊的影響力があります。これについては以前話しましたが、もう一度言うのは、私たちの多くが、それを理解していないようだからです。この世はそれ自体が、悪魔の世界です。私たちが住むこの偉大な国を含め、あらゆる側面です。それでもまだ、ちょっと受け入れられないこともありました。特に、人生の大半をこの国の防衛に捧げた男にとっては。その後、権力者たちが邪悪なものに支配下にあることを理解するようになります。だからといって、政府や組織の中のすべての人間が邪悪だと言っているわけではありません。違います。しかし、このシステム自体が、サタンの弱体化されています。世界的にですよ。しかし、敵は非常に巧妙で、私がこの国を防衛するため費やした全ての時間が、神の御心に敵対したかのように感じさせようとし、政府内部であろうとなかろうと、自分の仕事に疑問を感じ、同じように感じたことのある人はたくさんいるはず。これは神の働きなのか？と。高貴な仕事であったとしても、そのシステムは悪魔的です。もしそれがあなたであれば、私がそうであったことに、皆さんも励ましを得てください。まず第一に、今、ここが悪魔の世界であるにもかかわらず、真の生きておられる神は、私たちがその中に住まわせておられます。神のご栄光のために。神のご計画のために。一旦私たちが、イエス・キリストを受け入れると、イエスは私たちの歩みを整え、私たちの道を照らし、私たちがすべきは、神が私たちに導いてくださる方向を喜んで信頼することです。それが私たちに必要なことです。どうすればいいのか？ はい、神の御言葉です。それが方法です。それが光です。私たちが取るべきステップとして。適切に適用されれば、御言葉が多くのトラブルから私たちを守り、この悪魔的システムと、悪魔的世の中でどう生きるかを示します。ですから、主の御許しを頂いて、これらの節を見て、それを解説していこうと思います。でも、私達は、全ての舞台裏にある力を本当に理解する必要があるから、時間をかけて今ここに集中します。それが、現実から切り離すのではなく、世から完全に切り離すためです。皆さん、ついてきていますか？ そこに到達できれば、至高の勝利があります。いくつかの実践的な応用例と、これから話すことへの洞察を与えてくれる聖書の箇所を見ていき、そして最後に、祈りながら神のものをほとんど尊重しないこの世に生きながら、私たちはどのように、またなぜこの世の向こうを見据えなければならないのかを見ていきます。それでは、本題に入りましょう。神の御言葉をお読みします。聖句箇所、8節、

—マタイ 4:8—

悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、

私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストへのこの誘惑において、サタンが、イエスを連れて行ったのは、ただの高い山ではなく、非常に高い山です。これに留意すべきだと思います。このことは、この景色が唯一無二の奇跡的なもので、間違いなく誰も見たことのないものだった事を物語っていると思うからです。これは、イエスにすべての景色を見せる、見晴らしの良い場所です。「すべての王国。私を聞きなさい。すべての王国とその栄光だ。」ですから、なぜ悪魔は、イエスにそのように見せたかったのか？ 理由は、悪魔は、神の子であるイエスが完全に神であるだけでなく、完全に人間であることもはっきりと理解していたからです。皆さん、ついてきていますか？ イエスは、他のすべての人間と同じように誘惑されたのです。人間にとってつまずきの要因は、目の欲望。だからサタンは、イエスに言うだけでなく、イエスに見せたのです。「あなたに見せよう。」論より証拠。でしょ？ この世は何を考えているのか？「見る事が信じる事/百聞は一見に如かず」それがこの世でしょ？ 何かを見れば、誘惑されます。これは、目の欲望だけでなく、死すべき宿命にある単なる人間にとって、権力の提供でもあります。おお、権力の渴望。そうじゃないですか？ 権力。でもイエスは、ただの死すべき人ではありません。イエスは神の人です。言うまでもなく、イエスもサタンも両者が知っているのは、イエスが既にこの地とそこにあるものすべてを統治されるのを約束されていることです。この真理は、「詩篇2篇7節と8節」に記されています。御言葉は語ります。

—詩篇 2:7— 口語訳

わたしは主の詔をのべよう。主はわたしに言われた、「おまえはわたしの子だ。きょう、わたしはおまえを生んだ。

—詩篇 2:8— 口語訳

わたしに求めよ、わたしはもろもろの国を／嗣業としておまえに与え、地のはてまでもおまえの所有として与える。

言い換えれば、サタンが人の子(イエス)に提供しようとしているそれらの王国は、すでに人の子(イエス)のもので、サタンによる今の時代の支配は終わります。サタンがイエスに与えようとしていたものは、見かけとは違って、イエスが目にする輝き、華麗さは、罫の一部に過ぎないからです。そういうことです。ですからイエスにとって、王国そのものについてだけではありません。むしろ、サタンが、それらの王国を手に入れるため、イエスに別の方法を提案したということです。皆さん、ついてきていますか？ そしてサタンが、地上から王国を手に入れる方法は、神の御言葉に反逆することでした。思い出してください。神のご計画は、世の基が築かれる前からすでに動き出しています。ここにきてサタンが別の方法を提案。言うまでもなく、それらの王国は、注意事項付きです。しかし神は仰っています。「地のはてまでもイエスの所有である。」神は託宣、決まり、掟を宣言され、命令を下し、判断を下されました。そして、聖典が破壊されることはありません。しかし再度、悪魔は、イエス・キリストの人性を利用して、神の道ではなく別の道をイエスに考えさせ、イエスを誘惑しようとします。私たちは皆、サタンとその従者たちを墮落させたのが反逆であったことを知っています。しかし、そもそもこの世界全体がサタンに引き渡されたのも、反逆が原因でした。神が最初に人類に託されたことを聞いて下さい。「創世記1章27節28節」に記されています。御言葉が語ります。

—創世記 1:27—

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

—創世記 1：28—

神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

この支配には、「這うもの」として知られる地を這う蛇も含まれていました。その蛇が、神の御言葉に反することを口にした時、彼らは主の御名によってそれを叱責し、神の御心に従わせるべきでした。彼らは、神のみの権威のもとに統治することになっていました。しかしアダムは、神の御言葉に自らの意思で反抗することによってその権威をサタンに与えました。その記述を読むとき、留意すべきは、サタンは、アダムとエバに、何も見せはしなかったこと。サタンは、ただ話しただけ。サタンがすべきことは、神がしてはいけないと言われたことをアダムにさせることだけでした。ですから、サタンは、神の御言葉に反抗するという同じ結果を出すため、様々な戦術を利用することがわかります。サタンに耳を傾けたアダムによって、この時代の神(サタン)と同様に悪霊が彼らの支配者となりました。それでこのようになったのです。すべては、神の御言葉に背く反抗のせいです。それが正に、この悪魔の世界の姿で、絶え間ない反抗の様相です。考えてみて下さい。この世のあらゆるものの根底には、あらゆる意味で、神の御言葉と神のご性質に反抗するものがあります。これがまさに悪魔の世界です。あなたは信じたほうがいいです。神を証明する最も簡単な方法の一つは、私たちの住む世界全体が、いかに聖書の神に反抗しているかを示すことです。(この世)は悪魔の世界であり、人間の本性に反抗します。なぜか？ 理由は、神がそれを定められたから。彼らはそれを嫌っています。悪魔の世界は権威に反抗します。なぜか？ 理由は、神がそれを定められたから。この悪魔の世界は道徳に反抗します。なぜか？ 理由は、神がそれを定められたから。この悪魔の世界は真理に反抗します。なぜか？ 理由は、神が真理だからです。この悪魔の世界は、救いの唯一の道に反抗します。なぜか？ 理由は、神がそれを定められ、イエスが唯一の道だからです。何て言いました？ (会衆に) あ、1章ですね、失礼。お、なるほど。さっきのスライド、ちゃんと確認してよ。—(笑)—

これはテストですよ。あなた、合格しなくちゃ。悪魔のせいです。—(笑)— 私たちは注意する必要がありますね。私たちはまさに悪魔の世界にいるんだから。—(笑)— いつもいつも私たちは皆、神に反抗します。あれは単なるミスですけど。私たちは生まれながらにして罪深い反逆者で、神から切り離されています。だから私たちは、生まれ変わらねば(新生せねば)なりません。新生していない人は、この世が悪魔の世界だと理解できません。過去の私たちのように。私たちは、信じるために、聖霊の御力によって、引き寄せられねばなりません。事実、信じていない人たちの多くは、私たちクリスチャンに質問して挑発するのが好きで、「もし神がいるとしたら、神が創造した世界になぜこれほどの悪と破壊がもたらされるのを許すのか？」と。分かりました。私がおの人たちのために答えましょう。またあなたにも答えられます。シンプルに言います。この世が悪魔の世界だからです。この世は、悪魔の世界です。ええ、そうなのです。人間が、神の御言葉と神の愛に反抗したから。ですから、考えてみて下さい。悪魔が諸悪の根源です。苦しみと破壊の。そう、それについて、悪魔を責めて下さい。これが悪魔があなたに提供するものです。この狂気のすべて。ええ、神がそれを許されたのは、人間がそれを望んだからです。悪魔の世界を。それが悪魔の世界なのは、多くの人々が、悪魔を父にしたいから。それが真実です。イエスは仰いました。

「あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、」(ヨハネ 8：44)

なぜなら、あなたがたは真の生ける神を求めているから。では、悪魔が現在所有しているこの世界で、

悪魔が提供しているものを簡単に紹介します。悪魔は、「暴力」と「殺人」に満ちた世界を提供します。彼は初めから人殺しだったから。事実、彼の最初の殺人的行為はアダムに対するものでした。考えてみてください。サタンは、アダムがエバに対して持っていた感情的な絆を利用したとも言えます。聖書から、アダムは、欺かれていなかったことが分かるからです。これは、殺人の影響そのものが殺人そのものであることを示します。悪魔の世界は、盗んだ人生、すべての喜びが奪われた人生を提供します。なぜなら悪魔が、全ての喜びの「盗人」だからです。悪魔は、「嘘」と「欺瞞」に満ちた世界を提供します。悪魔が偽りの父だから。彼はエバの言葉を逆手にとって、エバを欺くことができました。なぜなら彼女は、神が言われたことを誤引用したから。彼女は、全世界を変えうる程 神の御言葉に付け加えました。これは非常に重要です。私たちはこのことを理解し、しっかり見るべきです。また「創世記3章2節3節」にこうあるからです。神の御言葉をお読みします。

一創世記 3:2一

女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。」

一創世記 3:3一

しかし、園の中央にある木の实については、『あなたがたは、それを食べてはならない。...

分かりました。そこは良いでしょう。

...それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」

ちょっと待って下さい。それって、それは神は仰っていません。この、たったひとつの神の御言葉の誤引用が、悪魔に欺瞞に満ちた罠を仕掛けるための驚くべき機会を与えました。主は理由があって仰いました。「御言葉につけ加えてはいけない。」(黙示録 22:18 参照)

額面通りに見れば、エバは、触れてもいけないと言及することで、より広い境界線、バリアを設定したように見えるかもしれませんが。あら、お上手。自分を切り離したいのですね。イエスがその場面に登場し、「汝、人を殺してはならない。」と仰るのを聞いた様な感じで、しかし、もしあなたが理由もなく兄弟に腹を立てているなら、あなたはすでに心の中で殺人を犯しています。(マタイ 5章参照)

それはエバがしたことではありません。そう、イエスは、意識的な話をされています。エバは、話の展開に物理的なことを持ち出しました。それが問題です。文脈を明確にすることは大事ですが、文脈を変えることは別です。なぜなら、ここから悪魔は、彼女に触らせるだけでいいことを知ったからです。それだけです。一旦エバが触れれば、それまでです。どうですか？ それが彼女のしたことでした。エバは、木の実を取り、どうですか？ 彼女は木の実を取り、それに触れて、そして死ななかつた。また、アダムが食べるまで、彼女の目は開かれませんでした。彼らの目が開かれると(悪魔に)言われたように。結論は、悪魔の世界は大変な惑わしです。悪魔の欺瞞は大変巧妙です。でも罪は結局、罪が一巡すると悲惨な結果をもたらします。欺瞞に対抗する唯一の方法は、真理を知ることです。この悪魔の世界はまた、あまりにも多くの場合、プライドに伴う破滅の世界を提供していて、世はそれに満ちていて、すべての悪と憎しみは言うまでもありません。悪魔の世界が、無限の死に方を提供していることが分かります。これが、今の世界がすべての人に提供しているものです。私たちが後千年王国の世界に生きてると信じているクリスチャン、どうすればそうなるのですか？ 私たちは、イエスがこの世に打ち勝ったことを知っていますが、この世はまだ邪悪なものの支配下にあるのですよ。この点を指摘する方法はたくさんありますが、「第二コリント人への手紙」の一節を見てみましょう。これは以前にも読みました。4章3節から4節、使徒パウロが手紙を書いています。神の御言葉をお読みします。

—II コリント 4:3—

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

—II コリント 4:4—

彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。

この時代（世）の神が。留意ください。使徒パウロがこれを書いたのは、キリストの死、埋葬、復活、昇天の後です。今から言うことは、木曜日の夜に言ったことですが、それは、神が、なぜこの世にこのような悪が起こるのを許されたのかを問うのではなく、私たちはこう問うべきなのです。なぜ神は私たちをこの世から救おうと思えば済むのか？ なぜか？ それは決して説明できない愛の実証です。サタンがイエスに、一瞬のうちにすべての王国を差し出したことを考えると、どうです？ この邪悪なものはすべて、それに付随します。イエスに見せられたのは、その素晴らしさだけでした。その下に潜む惨状ではなく。またサタンには、時間の経過の中のこの超自然的な王国を一気に見せる許可が与えられたのだと思います。それがどんなに素晴らしいものであっても、人の子はそれを拒絶されるのが分かります。ですから、私たちが自分自身に問うべき質問は、たとえそれが邪悪なものの支配下だと知っていたとしても、私達は、この世界に自分たちを執着させ続けるどんな素晴らしさを見ているのか。特にこんにち。私が目にする大半のものは、それは輝きでも栄光でも全くないからです。悪魔的で、地獄的で、無神。真の生ける神を信じない人たち、この事実を考慮ください。あなたがたはまだ、ある神に仕えています。地上のすべての生きとし生けるものは、いずれにせよ、ある神に仕えてきたか、あるいは仕えています。このことを、今朝の箇所次の節に結びつけたいと思います。信じる信じないにかかわらず、私たちは皆、神に仕えていることを忘れてはなりません。「マタイの福音書4章9節」をもう一度読みます。

—マタイ 4:9—

こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」

まず留意しなければならないのは、悪魔はイエスに、自分が提供する王国を支配する権利があると主張していることです。そして、イエスは、サタンが現在、地上の王国、すなわち一瞬のうちに地上の全ての王国を支配しているという主張に、決して叱責しておられないことがわかります。それは神の国に至るまでのすべての王国を意味します。皆さん、ついてきていますか？ 神の国は単なる霊的な王国だと信じるクリスチャンは、破られることのない神の御言葉をしっかりと把握していません。神の国は、まだ確立されていませんが、必ず確立されます。私は、その王国はもうそこまで来ていると信じます。その王国には終わりがなく、王の王、イエス・キリストによって支配されます。この真理も留意ください。イエスには、すべての力と権威が与えられています。イエスは、今この世界が闇に支配されているのとは違い、純粋な義で、この世界を支配されます。イエスは世の光と呼ばれます。でも人々は、その光よりも、闇を愛します。考えてみて下さい。この世界を愛することを選ぶ者は誰でも、サタンを愛します。ぶっきらぼうに聞こえますか？ それがありのままです。悪魔は今、世界のすべての王国を支配しているからです。でも私たちは、イエスが全てを支配し、イエスが全てなので大変幸運です。私たちはこれを知っています。イエスの完全な支配が来ます。再度、それは目前です。「詩篇110篇1節」に記されています。神の御言葉をお読みします。

—詩篇 110:1—

主は 私の主に言われた。「あなたはわたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで。」

よく知られた節です。座に着いていなさい。神は、心配で跳ね回っておられるのではありません。既に書かれています。それが来ます。神は、世界のすべての時間を握っておられます。神が時間を創造されました。そして神のすべての敵も創造されました。その全てを。あらゆる国々を。あらゆるものを。この世の者は、イエスの現れによって倒れます。私たちはこの世界から自分自身を守る必要がある。いいえ。それから離れる事です。イエスと来たるべき王国に目を向け続ける事。なぜなら、私たちがこの世界に留まるなら、それは私たちが世を愛していることを示すからです。そして世を愛するすべての人々には、御父の愛はなく(1 ヨハネ 2:15 参照)、神がいないことで、神に敵対する事だと聖書は語るからです。(ヤコブ 4:4 参照)

これは決して、「ヨハネの福音書3章16節の神は世を愛された。」と矛盾するものではありません。全く違います。「神は世の、ご自分の創造物の私たちを愛された。」神は、悪魔に引き渡されたこの世界から私たちを贖い出すために、とても素晴らしいことをしてくださいます。それはどんな愛なのでしょう？ それに対してどう答えますか？ たとえ私たちが生まれながらにして邪悪であったとしても、魂の救いのために、イエス・キリストの義を私たちの上に付与してもらうことができるのです。神は、この世のすべての人に、永遠の命につながる神の愛を受ける機会を与えてくださいます。しかし悪魔は、永遠の天罰につながるあらゆるものを世から受け取るために、全ての機会を私達のために手配します。覚えておいて下さい。これはすべて、世界のすべての王国の背景に潜んでいます。一旦、真の生きる神を拒絶すれば、誰を崇拜しますか？ 悪魔です。9節に関して興味深いのは、サタンが、、自分に膝を屈め礼拝するようではなく、ただ王国を受け入れるようにとイエスに言った方がよかったのに。そんな言葉を付け加えなければいいのに。皆さん、分かりますか？ イエスがもしも受け入れていたら、それは神の御言葉に反抗することになったでしょうから。皆さん、分かりますか？ でもサタンは、そこにひと言付け加えた。

「私に膝を屈め、礼拝するなら」と。ですから私に分かるのは、ひとつは、サタンは(神に)不服従だけでは満足しない。いや、それだけでは不十分。「私はあなたに、私を礼拝してほしい。」悪魔への完全な崇拜が、実にさまざまな形でこの世界の至るところで起こっています。ですから、神を信じないと言っても、あなたは悪魔を崇拜しています。神は存在しないということを悪魔があなたの心に刻んだから。そこから自分自身を崇拜し始める。それが悪魔の特徴です。自分がすべて。この聖句が教えるもう一つは、人間の墮落以後のこの世のすべてが、本当に闇の力に属している事実です。考えてみて下さい。もしサタンが一瞬のうちにイエスにすべての王国を提供できたとしたら、私たちに同じものを提供するのでは？

皆さん、ついてきていますか？ だからといって、彼がそのすべてができると言っているわけではなく、そのすべては警告付きです。文字通り地獄を見ることになります。でも、悪魔に魂を売る人の話を聞いたことがあるでしょう？ それは現実です。私が次に見るものは、多くの人の気に障るものです。でしょうが、皆さん私をご存知ですから、すぐに取り掛かかります。なぜなら、私は神の御言葉の権威に基づき、サタンは、世界の他の全宗教の頭であると言うつもりです。世は神の御言葉に敵対しています。全世界が。他のすべての宗教は、救いを得るために何かをしたり、涅槃の境地に達するとか、天国で20人の処女が待っているとか、消滅して天体になるとか、ジェダイの騎士になるとか、何でもありです。あなたは何かをしなければならぬ。皆さんの多くの仲間、私の親愛なる友人たちは、すべてではないにせよ、神の御言葉に反するこれらのおもな宗教の多くに散らばっています。愛を持って私は彼らに言います。

それらは偽の宗教だと。唯一の神はたったお一人、それが聖書の神である。以上。唯一の道は、イエス・キリストを通してのみ。最終的に、もし彼らが向きを変えなければ、永遠の呪いに死ぬためだけに生きるため獣の印を受けることとなります。それが事の事実です。私たちは友人にそれを伝えるほどに愛していますか？ それとも彼らの魂よりも付き合いが大事ですか？ 私たちは皆、時間がないと思っています。でも、私たちは本当にそれを信じていますか？ 聖書の神は、起こったこと、今起こっていること、これから起こることを教えておられ、そうなる時、私たちが信じるように。私たちはそれを彼らに伝えていますか？ 私たちはここに座って、聖書は真理だと主張する必要はありません。説明を要しませんから紐解いて読んで下さい。破滅への道はたくさんありますが、永遠への道は一つしかありません。狭き門。それがイエスです。狭い道です。それ以外はすべて偽りで、悪魔に所有されています。私たちには、なんと愛に満ちた神がおられるのでしょうか。私たちにただ一つの道を与え、すべてを成し遂げてくださった一人の神だけを礼拝する。隅っこに座る必要はありません。なぜなら、まず第一に、私は仏教徒にはなれないから。私の体がそうさせません。－(笑)－ 私が下に座って、座禅を組むなら終わり。－(笑)－ まずいこととなります。もし私たちが他の手段で神の国を手に入れようとするなら、私たちは悪魔の前にひれ伏し、悪魔を崇拜しているのです。この点は、私たち全員に徹底させる必要があります。イエスが唯一です。聖書の神に従う事は、他のどの宗教とも、何とも違います。イエスこそが分かれ道で、決め手です。すべてを神の御言葉と比較すれば、他のすべてがいかにかけ離れているかがわかります。遙か彼方です。人々はいくつかの類似点を指摘するのが好きで、2、3つの共通点を見たがります。でも、その大きな違いをお見せします。イエス。それだけ。あなたは、あらゆる類似点を主張することができますよ。キリストがなければ、永遠の天罰です。人々がこんな風に話すのが好きです。

「ねえ、イエスが来られたのは、今から 2000 年も前のことなら、その前に死んだ人たちはどうなるの？」よくぞ聞いてくれました。その質問をしてくださって嬉しいです。まず第一に、それは贖い主を待ち望む人々で、信じてください、彼らは復活します。彼らは、未来の贖い主を待ち望みました。そして贖い主イエスが来られ、私たちは、すでに来られ、また来られる贖い主を振り返り待ち望んでいます。同じイエスです。「ああ、イエスは旧約聖書におられない。イエスという名は出てこないし。」贖い主があります。エホバがあります。読み上げられる呼び名のリストがありますよ。同じ神、唯一の神です。神が肉に宿られたイエス・キリストという人物です。次の箇所は、悪魔やその手下があらゆるこの世のものを私たちに見せるときこの世の神に対処する方法を教えてください。10節、神の御言葉は語ります。

－マタイ 4:10－

そこでイエスは言われた。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。」

イエスが、ここでサタンを叱責されているのを留意ください。良い事です。サタンは離れて行きます。(11節)そして聖句から分かるのは、サタンはまた戻って来ること。そこだけが残念なところですが、でもここで私が言いたいのは、闇の力に対して、私達はイエスの御名においてこのような状況を叱責する必要があるということです。私たちは、キリストにある兄弟や姉妹、家族、そのすべてを叱責できます。でも話しているのは、悪霊の主権では？ 霊的戦いは分かっています。ええ、皆さん分かっています。あなたはここに座って、「あなたを叱責する」と言うとき、何を考えていますか？ 「は、は、は！」悪魔がそう言っています。「マジ？お前が？」イエスの御名で叱責すると、全てが変わります。私を信じて下さい。悪魔の手下はそこら中にいますから。言うまでもなく、私たちは自分の肉と戦わなければなりません。

私たちはまだ罪深い性質があります。それが私たちの本来の姿だからです。ちなみに、これが悪魔の世界が私たちにとって魅力的な理由ですよ。揺るがすのは難しいでしょ？ 習慣を直すのは難しいです。私たちが霊的に新しくされても、肉に敵対する戦いです。悪魔の世界は罪の世界です。それは人間が救うことも飼いなすこともできません。自分たちを見れば分かります。これがすべての現実です。私たちが生きている現在の世界です。にも関わらず、私たちクリスチャンは、私たちの神である主を礼拝し、主のみ仕えねばなりません。前に話したように、私たちはこの狂気の中を切り抜けなければなりません。と同時に、この世界の良き管理者でなければなりません。真の生けるの神が、この世界を含むすべてのものを創造されたことを認識してください。それを忘れてはなりません。キリストをこの世の良き証人として表し、この世から他の人々を連れ出せるよう願います。神の御言葉は、このすべてを達成する方法を教えています。聖書の中にいくつかの例があります。私たちはまた、周囲の環境に左右されずに、この世界で生きていくためのすべての青写真があります。しかし、私たちが聖霊の御力に応えなければ、満たされず、実りのない人生や、失望に満ちた人生を送ることになります。ですから、私たちは皆、これから見ていく聖句をもう一度よく見て、本当に心に留めた方がいいと思います。それは「第一テサロニケ人への手紙4章」11節12節に記されています。繰り返しになりますが、私たちはこのことはよく話します。神の御言葉をお読みします。

—I テサロニケ 4:11—

また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くことを名誉としなさい。

—I テサロニケ 4:12—

外の人々に対して品位をもって歩み、だれの世話にもならず生活するためです。

これは、この邪悪で、狂った、悪魔的で、サタン的な世界とシステムの中で、私たちがうまく切り抜けるためです。落ち着いた生活をする。自分の仕事に励み、自分の手で働く。これだけで5週間の説教ができます。まず第一に、落ち着いた生活を送ることは、耳を傾ける機会を与えてくれます。私たちの生活が混沌に満ちていて騒々しいものであったら、どうやって神の御言葉を聞くのですか？ たとえあなたがこの礼拝堂に座っていても、真っ先に頭に浮かぶことが「明日仕事に行かなきゃ」だったなら、仕事の時間を気にし続けているなら、何にも聞いていません。ここにいるんでしょけれど、あなたは何も聞いていない。忙しい生活。落ち着きがなく、騒音に満ちている。自分の手で働くとは？ 私たちが手をつけるべきことに、手をつけているのか？ では、この自分の手で働くというのは、反社会的という意味ではなく、また、これは他の兄弟姉妹をチェックしたり、責任を追及したりすることでもありません。そういうことではありません。これはこの世の人たちに関してです。12節で、この真理が分かります。これらが適切に実行されるから、私たちは、信仰の外にいる人々に対して正しく歩むことができるのです。皆さん、ついてきていますか？ 私たちが何も欠けていないことを示すので、信仰の外にいる多くの人たちは、なぜだろうと思い始めます。祈りにおいて彼らは私たちにそれを質問し、祈りにおいて私たちには答えがあります。私たちが彼らに与えるその答えは、イエスであるべきです。覚えておいてください。私たちが世を裁くではありません。彼らに私たちが裁かせるのです。なぜなら、もし私たちが神に受け入れられる生き方をしているなら、彼らがやってきて私たちが裁けば、聖書が語る通り、彼らは恥をかくことになります。(I ペテロ 3:16 参照)

しかし、私たちは、真の生ける神に受け入れられる生き方をしなければなりません。次の例は、これもよ

く読みます。これは、私たちが教えたり説教したりする人たちに向けたものではありませんが、私たちのすべての学びのためのものです。「第二テモテへの手紙2章」3節から4節に、次のようにあります。神の御言葉が語ります。

—II テモテ 2:3—

キリスト・イエスの立派な兵士として、私と苦しみをともしてください。

—II テモテ 2:4—

兵役についている人はだれも、日常生活のことに煩わされることはありません。ただ、兵を募った人を喜ばせようとしています。

では、これは私の人生において、神が取り組んでおられる分野です。私は時々、この問題を通り抜けることに苦労することがあります。それは苦難のことではありません。それが好きな人などいません。でも私たち皆、それに耐えねばなりません。私の課題とは、ええ、私は議論に巻き込まれます。おお、そうなんです。ある話題を持ち出すと、何かしらの衝撃を受けます。私たちは揉めませんよ。—(笑)—

何というか、本当ですよ。したいですか？ 神は私に働いて下さっています。3節で使徒パウロは聖霊によって、イエス・キリストの兵士という言葉を使っています。キリストに召された兵士。日々の心配事やこの世の事柄で、最高司令官の命令を覆すことはできません。だから、世がこう言っても、御言葉がそう言うならそうすべきです。分かりましたか？ (会衆：はい。)

で、これは物事に巻き込まれないための予防策ではないことを、しっかりと理解しましょう。違います。これは隠者になれということでもありません。これは、主への奉仕を中断させるような事柄に飲み込まれたり、囚われたりしないようにという責務で、特に、聖職にある者にとって。また、ここにいる誰もが社会運動のようなものに巻き込まれるべきではありません。悪を告発するのは一つですが、巻き込まれることは別の話です。私たちは決して政治的な動きに巻き込まれるべきではありません。選挙権を行使するのは一つですが、でも巻き込まれるのは別の話です。論争になるような事柄に決して首を突っ込んではいけません。それが私です。—(笑)— 中には、ソーシャルメディアに夢中になっている人もいます。私はしません。対面で話します。それが良いとは言っていないけど。でもこの世の神は、私たちクリスチャンがあらゆることに巻き込まれることを、何より望んでいて、私たちを(霊的)戦いから遠ざける。それから、私たちは霊的な戦いに巻き込まれるべきであるのに、敵に正面から立ち向かうかわりに、心配事や用事で消耗しきっていると、後ろにある愚かな問題に取り組むために、自分達の背後をさらします。私たちが、神の武具について知っていても、私達が背後を向けるならどうなるか？ さらけ出しです。で、敵がやってきて、私たちの何人かを襲撃し、残りを操り人形にする。今はベネディクト・アーノルドが大勢います。(※売国者)裏切り者です。背後丸出しで敵と交戦することはできません。最高司令官に従っている間、すべてを目の前に保っておかねばなりません。それが目的です。私たちは今、神に従うだけでなく、イエスに完全な信頼を置くことで、これらすべてができます。考えてみて下さい。ダニエルは、バビロンで仕えながら、自分の道を切り開きました。仕えるだけじゃなく、彼はバビロンの王にも仕えています。ダニエルは神を信じ、自分の信仰には決して妥協しなかった。彼は賢く、尊敬に値します。ネブカドネツアル王がダニエルの神を "われらの神、いと高き神"と呼んだほどです。神は、ネブカドネツアル王がふさわしいとさえお考えになり、(あの夢を)ダニエル書4章に書かせられました。それが多くを語ります。考えてみて下さい。若い方たちは、留意ください。大半の人が同意するのは、ダニエルは、バビロンに捕囚された時、17歳以下だった事。主の御名によって、すべての主権を叱責することを勧め

ます。真の生ける神を礼拝し、その神だけに仕えることを追求する。私たちが自分に謙虚になり、聖霊が私たちの人生においてこのすべてをなされるために、聖霊へ道を譲るなら、聖句 11 節が本当に起こることを保証します。神の御言葉は語ります。

—マタイ 4:11—

すると悪魔はイエスを離れた。そして、見よ、御使いたちが近づいて来てイエスに仕えた。

繰り返します。イエスは、神の御言葉で悪魔を叱責された。すると悪魔は去るのです。使徒ヤコブが聖霊によってこう書いています。

「悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」(ヤコブ 4:7)

悪魔に対抗することとは、悪魔がこの世的なもので私たちに影響を及ぼすことを許すのではなく、神の御言葉に堅く立つことです。私たちが世の闇の権力者と会話を交わす時、私たちは御言葉だけで会話せねばなりません。皆さん、ついてきていますか？ 悪魔と軽い会話やお笑い話は止める。いいえ、御言葉です。世がやって来るなら、聖書の話をする。すると悪魔は逃げ去る。はい。悪魔は戻ってきますけど、彼らが去っている間、私たちはその機会を利用し、聖霊が私たちを導いて下さるようすべきです。それが私たちのすべきことです。忘れてはならないのは、イエスはいつでも望まれる時には、御使いたちの指導者を呼ぶことがお出来になりました。ここで分かるのは、(悪魔への)叱責の後、御使いたちはイエスのもとに来ました。考えてみて下さい。私たち全員にとって貴重な教訓ではないですか？ これは、私たちが神の御言葉に立ち、この世を叱責するとき、真の生ける神が私たちに天の軍勢を派遣して下さるのを物語っています。悲しい事に、私たちはあまりにも頻繁に、神の御言葉ではなく、この世を信頼しています。私たちが世を信頼する時、誰が導きに來るのでしょうか？ 分かりますか？ 考えてみて下さい。

神の御言葉が語ります。「わたしに近づけば、わたしはあなたに近づきます。」(ヤコブ 4:8 参照)

私たちがまず、神に近づけば、神は私たちに近づいて下さいます。でも私たちが世に近づき続けるなら、この世は悪魔ですから、悪魔が私たちに近づきます。真の生ける神を信じる私たちは、この世のために生きるのではないことを覚えておいてください。私たちは、來たるべき王のために生きるのです。イエスの王国がやって來ます。その王国が來れば、この悪魔の世界を完全に焼き尽くします。待ちきれません。私たちは皆、こう言うべきです。「下がれ、サタン。イエスの御名によって。」ご起立ください。祈りましょう。

天のお父様。主よ、ご忠実でいてくださり私たちが信者の体として集まる機会を与えてくださり、またあなたを求めて、あなたがリアルかどうか知りたい者を引き入れて下さり感謝します。主よ、あなたはリアルです。私たちが今、この悪魔の世に生きていても、あなたは壮麗な王国を築かれるため來られます。あなたは、私たち信じる者すべてがその王国に入る機会を与えて下さいます。ですから主よ、どうかこのメッセージをあなたが祝福してください。私たちが忠実にし続け、あなたの御言葉だけに堅く立てるようして下さいますように。私たちはあなたを愛し、あなたを褒めたたえ、あなたが全ての榮譽と栄光をあなたの御名故に、お受けになります。その名はイエス。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7

